

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2020年2月26日 水曜日

APEXからOCIオブジェクト・ストレージを操作する(3) - ADBの作成からAPEXアプリの準備まで

Autonomous Databaseのインスタンスの作成、APEXのワークスペースの作成、空のAPEXアプリケーションの作成を行います。

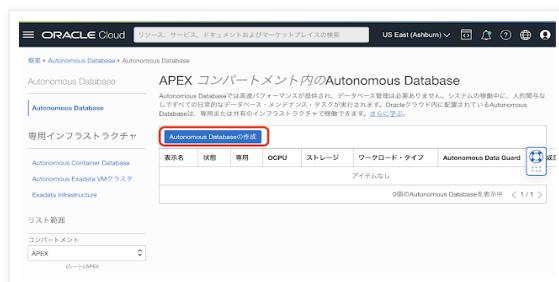
Autonomous Databaseの作成

ハンバーガー・アイコンをクリックし、Oracle DatabaseからAutonomous Databaseを開きます。



コンパートメントはAPEXが作成済みですが、オブジェクト・ストレージの呼び出しはつねにREST API経由であるため、同じコンパートメントに存在していなくてもよく、さらにはネットワーク経由でオブジェクト・ストレージにREST APIを発行できれば良いです。今回はAlways Freeのデータベースを作ります。

Autonomous Databaseの作成をクリックします。



Autonomous Databaseを作成するにあたって、必要な情報を指定します。コンパートメントはここではAPEXとしました。表示名、データベース名も任意に設定してください。今回はAPEXDEVとしています。

Autonomous Databaseの基本情報の指定

コンバートメント
APEX (デフォルト)APEX

表示名
APEXDEV

データベース名
APEXDEV

名前には、英字と数字のみを含めて、英字で始める必要があります。最大30文字です。

ワークロード・タイプの選択は、データ・ウェアハウス、トランザクション処理、JSONまたはAPEXのどれかを選びます。今回はトランザクション処理を選んでいきます。デプロイメント・タイプの選択は、共有インフラストラクチャ択です。

ワークロード・タイプの選択

データ・ウェアハウス
意思決定支援およびデータ・ウェアハウス・ワークロード用に構築されています。大量のデータに対する高速な問合せです。

トランザクション処理
トランザクション・ワークロード用に構築されています。短時間の問合せとトランザクション用の高実行性です。

JSON
JSON中心のアプリケーション開発用に構築されています。開発者が扱いやすいドキュメントAPIおよびネイティブJSONストレージです。

APEX
Oracle APEXアプリケーション開発用に構築されています。ローコード・アプリケーションの作成およびデプロイメントです(データベースが含まれます)。

デプロイメント・タイプの選択

共有インフラストラクチャ
共有Exadataインフラストラクチャ上でAutonomous Databaseを実行します

専用インフラストラクチャ
専用Exadataインフラストラクチャ上でAutonomous Databaseを実行します。

専用ExadataインフラストラクチャはAlways Free Oracle Autonomous Databaseには使用できません。

Always Freeにチェックを入れると、構成は固定されます。データベース・バージョンの選択として19cを選びます。リージョンによっては21cが選べる場合もありますが、正式にはリリースされていないバージョンなので、選択はしません。

データベースを構成します

Always Free ☒ Always Freeの構成オプションのみを表示

ⓘ お客様のAlways FreeのAutonomous Databaseにおいて7日間連続でアクティビティがなかった場合、データベースは自動的に停止します。データは保持されるため、データベースを再起動すれば引き続き使用できます。データベースが3か月間停止したままの場合、再利用されます。 [さらに学ぶ](#)

データベース・バージョンの選択
19c

OCPU数 読取り専用
1
Always FreeのAutonomous Databasesで利用できるコアは最大1つです。CPUコアの数は調整できません。

OCPUの自動スケーリング
ワークロードの増加に応じて、OCPU数で指定されたコア数の2倍までシステムで使用する可能性があります。 [詳細](#)

ストレージ(TB) 読取り専用
0.02
Always FreeのAutonomous Databasesで利用できるストレージは最大0.02TB(20GB)です。ストレージ・サイズは調整できません。

ストレージの自動スケーリング
システムで、予約されたストレージの2倍まで拡張できるようになります。

ユーザー名はADMINで固定です。任意のパスワードを指定します。

管理者資格証明の作成 ⓘ

ユーザー名 読取り専用
ADMIN
ADMINユーザー名は編集できません。

パスワード

パスワードの確認

ネットワーク・アクセスの選択については、すべての場所からのセキュア・アクセスを許可(制限を加えてもかまいません)を選びます。Always Freeなので、ライセンス・タイプの選択はライセンス込みになります。最後にAutonomous Databaseの作成をクリックします。

ネットワーク・アクセスの選択

アクセス・タイプ

すべての場所からのセキュア・アクセス

データベース資格証明を持っているユーザーに、インターネットからデータベースへのアクセスを許可します。

✓

許可されたIPおよびVCN限定のセキュア・アクセス

指定されたIPアドレスおよびVCNへのアクセスを制限します。

プライベート・エンドポイント・アクセスのみ

OCI VCN内のプライベート・エンドポイントへのアクセスを制限します。

仮想クラウド・ネットワーク・オプションはOCI Free Tierアカウントには使用できません。

☒ 相互TLS mTLS認証が必要 ①

このオプションを選択する場合、Autonomous Databaseへの接続を確認するためにmTLSが必要になります。

ライセンスとOracle Databaseエディションの選択

ライセンス・タイプの選択

ライセンス持込み(BYOL)

組織のOracle Databaseソフトウェア、ライセンスをOracleデータベース・サービスに使用します。[さらに学ぶ](#)

ライセンス込み

新しいOracle Databaseソフトウェア・ライセンスとデータベース・サービスをサブスクリブします。

✓

運用上の通知およびお知らせ用の連絡先を指定してください ①

連絡先の電子メール

有効な電子メールアドレスを入力してください

連絡先の追加

[拡張オプションの表示](#)

Autonomous Databaseの作成 取消

数分で、データベースが使用可能になります。

ORACLE Cloud

Autonomous Database

APEXDEV

データベース・アクション | 監視 | パフォーマンス・ハブ | スケーリングの管理 | 他のアクション

Autonomous Database情報

一般情報

データベース名: APEXDEV

ワークロード・タイプ: トランザクション処理

コンパートメント: (ルート)APEX

OCID: oc8bnta 表示 コピー

作成日: 2022年12月1日(木) 07:36 UTC

COMPID: 1

CPU配分スケールング: 無効 ①

ストレージ: 25GB

ストレージの自動スケールング: 無効 ①

ライセンス・タイプ: ライセンス込み

データベースのバージョン: 19c

ライフサイクルの状態: 使用可能

インスタンス・タイプ: 無料 詳細にアクセス

文字セット: AL32UTF8

各接続文字セット: AL16UTF16

モード: 読み取り専用 編集

APEXインスタンス

インスタンス名: APEXDEV

インフラストラクチャ

専用インフラストラクチャをいいえ

Autonomous Data Guard ①

ステータス: 無効 ①

バックアップ

最近の自動バックアップ このデータベースにはアクティブ・バックアップがありません。

ネットワーク

アクセス・タイプ: すべての場所からのセキュア・アクセスを許可

アクセス制限リスト: 無効 編集

相互TLS mTLS認証: 必須 編集 ①

メンテナンス ①

パッチ・レベル: 最新 ①

次のメンテナンス: 2022年12月3日(土) 19:00:00 UTC

最新のメンテナンス: -21:00:00 UTC

顧客の連絡先: なし ① 編集

暗号化

暗号化キー: Oracle管理キー

APEXにアクセスするために、**ツール・タブのAPEXを開く**をクリックします。

ORACLE Cloud

Autonomous Database

APEXDEV

データベース・アクション | 監視 | パフォーマンス・ハブ | スケーリングの管理 | 他のアクション

Autonomous Database情報

ツール

Autonomous Database用のデータベース管理および開発ツール

Oracle Application Express

Oracle Application Express (APEX)は、どこでもブラウザで実行できるウェブアプリケーションフレームワークです。アプリケーションを開発するためのコード生成プラットフォームです。[さらに学ぶ](#)

APEXを開く

SODAドライバ

Simple Oracle Document Access (SODA)は、Oracle Databaseに接続して管理されているSODAドキュメントを、SQLを使用して簡単に操作するためのAPIです。SODAはPython、Java、.NET、Node.js、Python、PL/SQLおよびOCIで使用できます。[さらに学ぶ](#)

SODAドライバのダウンロード

Oracle MLユーザー管理

Oracle Machine Learningは、Webベース・インタフェースを使用してデータ分析、予測分析およびデータ・サイエンスアプリケーションを開発するためのプラットフォームです。[Oracle ML User Administrationを開く](#)

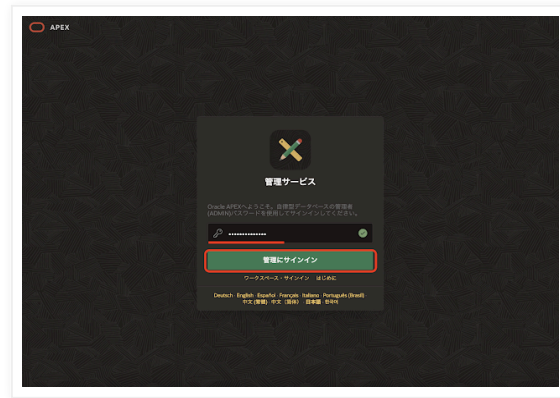
Graph Studio

Oracle Graph Studioでは、プロトタイプ・グラフ・データベースの作成が可能です。データベースからグラフ・セマンティック・クエリを生成するための機能があります。Graph Studioは、グラフ・データベース・ユーザーとしてのログインを必要とします。このユーザーは、データベース・アクションで利用します。[詳細を見る](#)

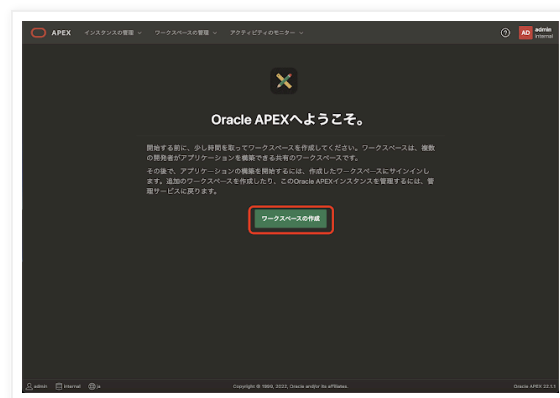
Graph Studioを開く

APEXワークスペースの作成

管理画面へログインするためのダイアログが表示されます。Autonomous Databaseのインスタンスを作成するときに指定したパスワードを入力し、**管理にサインイン**をクリックします。



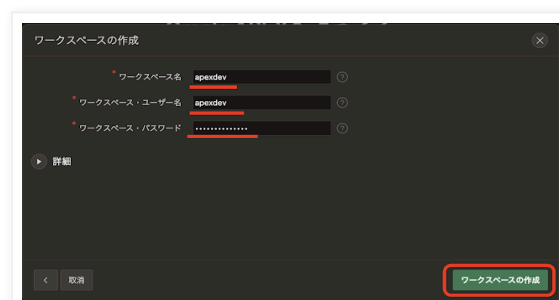
初期状態ではアプリケーションの開発を行うためのワークスペースが無いので、その作成を要求されます。**ワークスペースの作成**をクリックしてワークスペースを作成します。



新規のスキーマを選択します。

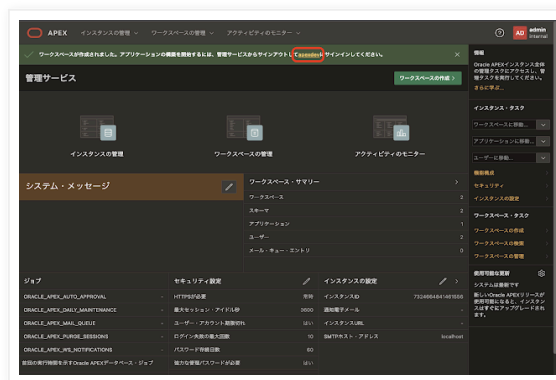


ワークスペースの作成に必要な、**ワークスペース名**、**ワークスペース・ユーザー名**、**ワークスペース・パスワード**を指定します。ここでは、**ワークスペース名**としてapexdev、**ワークスペース・ユーザー名**もapexdevとしています。

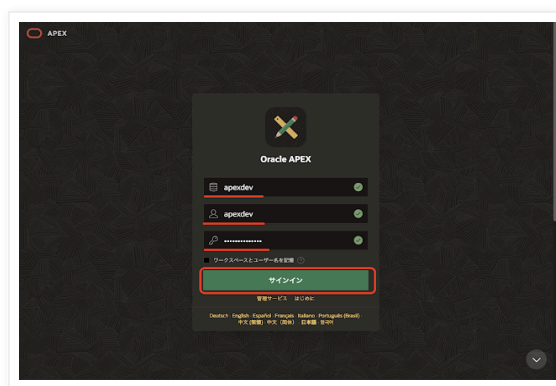


ワークスペースが作成されました。

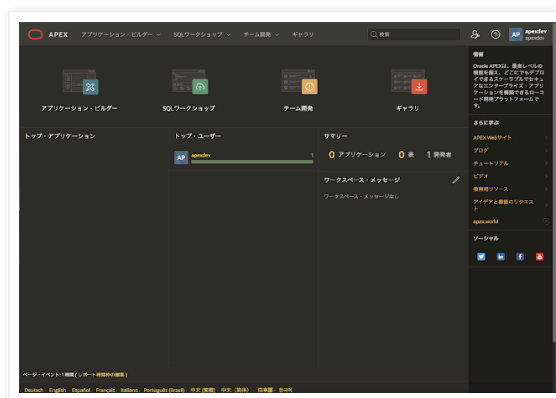
メッセージ中に新規に作成されたワークスペースのサインイン画面へのリンク(この画面では apexdev)があるので、それをクリックして、開発環境へサインインします。



先ほど設定したワークスペース名、ワークスペース・ユーザ名、ワークスペース・パスワードを入力し、サインインをクリックします。



Oracle APEXの開発画面が表示されました。



APEXアプリケーションの作成

アプリケーション・ビルダーをクリックして、アプリケーションの作成を開始します。



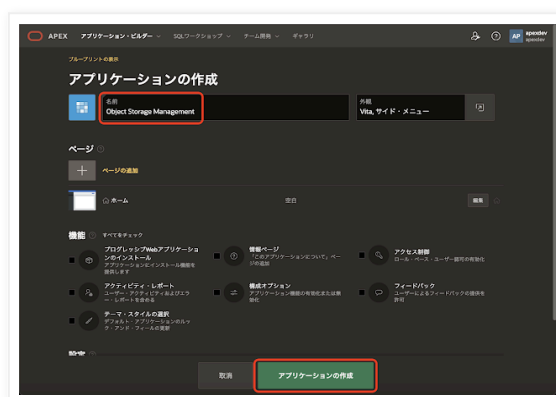
アプリケーション・ビルダーから、**新規アプリケーションの作成**(または**作成** - 作成済みのアプリケーションがひとつも無いときに、新規アプリケーションの作成ボタンが表示されます)をクリックします。



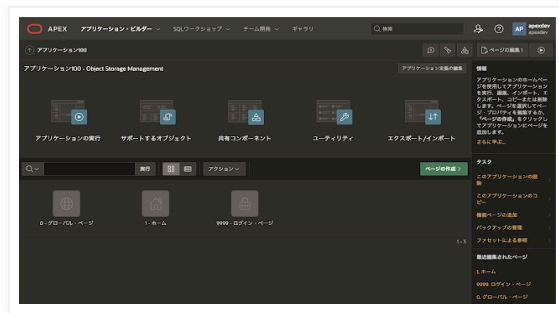
アプリケーションの作成方法として、**新規アプリケーション**をクリックします。



アプリケーションの作成画面が開きます。とりあえず空のアプリケーションを作成するので、名前に**Object Storage Management**と入力し、**アプリケーションの作成**をクリックします。



空のアプリケーションが作られました。



これから、OCIのオブジェクト・ストレージを操作する機能を実装していきます。

続く

Yuji N. 時刻: 18:42

共有

<

ホーム

>

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.